

議事録

審議会等名	第5回まちづくり検討委員会
開催日	令和元年10月18日（金曜日）
開催場所	つくばみらい市役所伊奈庁舎 2階 大会議室
出席者	出席委員 有田委員長、鐘ヶ江副委員長、五木田委員、武藤委員、野口委員、生井委員、齊藤（常）委員、牟田委員、斎藤（保）委員、森田委員、白鳥委員、菩提寺委員、下鳥委員、中島委員 事務局 都市計画課 梅本課長、荒井副参事、荒川係長、松本主事 コンサル オオバ
議題	1 報告 ・地域別懇談会の報告について 2 説明 ・都市計画マスタープラン改定（素案）について ・立地適正化計画（素案）について

○質疑応答

発言者	意見
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料の 39 ページ、これは前提条件がまとめられているところだと思うが、7 番の財政状況等の (1)、固定資産税額と都市計画税額、歳入・歳出の内訳と書いてあるが、歳入の推移のところを見ると、固定資産税額と都市計画税額については特に記載がなく、恐らく市税として一つにまとめられていると推測する。誤解を招くような表記なので、歳入・歳出の内訳でいいのではないかと思う。もしくは、固定資産税額と都市計画税額を市税のところからレベルを一つ下げて、細かく書くか、どちらかにしたほう良いと感じた。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>誤字脱字がこの計画にも多数見受けられるので、そういったところは適宜修正したいと思う。</li> <li>下の図表が歳入の推移となっているので、歳入、市税である。固定資産税額、都市計画税額という記載は削除する。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料の 44 ページの前提条件で、つくばみらい市将来人口推計というのが右下の表に出ている。45 ページの小地域別人口推計結果その 1、その 2 となっていて、その後に行くと (3) 100mメッシュ人口データ作成方法となっているが、ここだけこの表を出したが何も書かれていない。 これを見たときに、幼年割合と高齢者割合を見て、みらい平地区はすごい幼年人口割合が 2040 年に減ると思った。高齢者の割合も上がり、一言で言うと衰退してしまうと思った。他は高齢者の割合もそんなに上がっておらず、むしろ幼年割合は数%増えていると取れる。 このデータをよく見てみると、例えば 46 ページの大字西檜戸というところがあるが、2015 年総人口 204 名に対して、2040 年 193 人に減っている。5 歳未満の人口は 7 人から 10 人で 3 人増えていので、総人口が減少している分、5 歳未満の人口は増えているので、結果的に幼年割合が 2040 年 5.2%増える。一方でみらい平地区はどうなっているかと言うと、46 ページ下の 5 行目、陽光台 1 丁目、2015 年の総人口が 1833 になっている。それが総人口として 2040 年には 2251 に増えるが、若い世代が住んでいて 20 年後はみんな年を取るので、5 歳未満の人口は 117 人から 17 人減っている。幼年割合は 6.4 から 4.4。数字のトリックみたいな感じに見え、単純にここだけで何かを判断されてしまうのは少し怖いので、意図を示す結果ないし、言いたいことを付け加えないと、誤解されてしまうのではないかと思う。 ・更に言うと 5 歳以上 64 歳以下の陽光台 1 丁目の人数は、2015 年から 2040 年まで 1500 人と変わっていない、そういうふうに数字を見ていて受け取れるので、これについては何か補足の説明がないと、誤解されてしまうのではないかと思う。</li> </ul>

(次ページへ)

発言者	意見
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>この集計結果が出ておりますので、説明の補足を改めて計画の中に入れたいと思う。また、こちら社会問題人口研究所のデータを記載しているが、この人口が多いみらい平地区であれば5歳未満の人口がちょっと減れば幼年割合とか変更していき、元々総人口が低いところは子どもが何名か増えると幼年割合が増えてしまう数字のマジックがある。</li> <li>この辺はつくばみらい市の各地域で多くの方々が生きており、こういった人口の推計という形でお示ししようと思ひ、こちらのほうに記載したが、配慮が足りなかったと思う。載せ方については今後事務局のほうで考えていきたい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>人口の話が出ていたが、20年後の推計が53,000人ということで現時点からプラス3,000人ぐらいの予想になっており、20年後以降は4万人台になって人口が減少していくというような記述が記載されていた。この都市計画マスタープランの一番怖いところは、これが20年間土台になっていくということで、20年後を見越したとき、実はこれのゴールというの一番ピークのプランになっている。ピークのときにこれが完成するプランになっているが、実は21年目になったら下がってくる。20年間少し先を見越した状態で作っておかないと、20年後継承する方たちがすごく大変になる。</li> <li>まず一つ思うのは、20年間の間で目指すべき方向性というのが市としてあると思う。具体的に言うと、市長が替わっても変わらないプランがあると思うので、しっかりどこかに書いておくべき。20年後の目標を見据えてそれをずっとたどって行って、この時期にこういうことがあったらいいというような視点を持って作っていった上で、20年後の下がっていくというところも見ておく。</li> <li>特にみらい平地区は高齢者化率がものすごく増えるので、ちょっと怖いというのを今回のこれを見て感じた。</li> <li>高齢化に関しても、どこかに高齢化に対応しますというような一言が書いてあり、それで現時点で終わっているが、人口が増えてそのままずっと一定であれば、市としては別に問題ないと思う。人口が拡大するという前提で作られているが実際に拡大する核となるのはみらい平であり、宅地の造成がものすごく進んでいて、個人的にはあと十年もすれば住宅開発は完了すると思う。住宅開発が完了すると人口は増えず、減っていく。3分の1離婚する時代になっており、みらい平は実は空き家がものすごく増えていて、単純計算で3分の1が空き家になる可能性もある。20年後は、特に陽光台地区は大体40代から50代の方がお住まいになっているのが多くなることが予想され、この人たちをどうしていくか。市としてこの人たちはもう、私たちは若い世代を受け入れたいから、外に出てくださいますか、ここに留まってもらって子どもたちを呼んでもらいたいのか、やはり高齢化に対応するプランというのをもう少し具体的に出しておかないと、20年後いなくなってしまうと思う。</li> <li>高齢者施設を建てて区民をそちらに移動させている地区であったり、アメリカでやっているようなCCRCの話等もう少し何か具体的にこの中に書いてもいいと感じた</li> </ul>

(次ページへ)

発言者	意見
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みらい平の平均年齢の割合は、市としても今後、注意深く見ていく。引き続き、みらい平にお住まいの方は当然安全な地区を求めて、つくばみらい市に住まれていると思うので、引き続き高齢者になりましてもつくばみらい市に当然住み続けてほしいという考えがあり、つくばみらい市で生まれ育った子どもたちも、つくばみらい市に引き続き戻ってきてまた家族と一緒に住んでほしいという考えをもとに計画にもいくつか盛り込んでいる。</li> <li>・先ほど、高齢者のプランの記載が薄いのではないかという意見もあったが、個別にまちづくりの他に高齢者の社会福祉課や、介護福祉課のほうの所管の計画もあり、高齢者が増えてもつくばみらい市としましては、高齢者に住みやすいまちづくり、当然若い世代にとっても住みやすいまちづくりという形で、将来にとってまちづくりがキーポイントになるので、そこは長いスパンでまちづくりを考えていきたい。</li> <li>・福岡地区に今回、平成30年に市街化区域に入り、そちらに工業団地を今のところ区画整理を造成している。高齢者になりましても定年も延長されており、高齢者になっても働けるような環境を作り、高齢者の方も働いて若い方も働いていただく、引き続き住みやすいまちづくりを行っていく。高齢者になっても働ける場の確保も、つくばみらい市としては考えており、そういうところも福岡地区の市街化区域の拡大なので、マスタープランの計画には盛り込んでいる。</li> </ul>
有田委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料44ページで小地域別人口推計があり、この2040年がこのマスタープランの目標年次でもあるが、その時点で53,140人設定しているが、この推計というよりもこれがマスタープランとしての将来目標人口設定にしてあるという、意味合いであっているか。</li> <li>・総合計画やまち・ひと・しごと創生人口ビジョンの人口の数値との予測というのは、どのように設定されているのか。</li> <li>・人口ビジョンで将来の税収見通しとかそういうのを財務運営のベースが決まると思う。マスタープランは同じ人口規模でも、空間というか地区特性ごとにまだ若年層が多いとか、高齢化がより早く進行してとか、地区ごとに課題が違うというところがむしろ全面に分析して対応をしていくということが主旨と思う。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口ビジョンのデータとマスタープランの整合を図っている。おおよそ5,300人と記載しているが、現在、市の人口ビジョンの見直しの計画があり、今後、整合を図りたいと考えている。</li> <li>・つくばエクスプレスがあり、みらい平地区においては、人口の推移は伸びているが、その他市街化調整区域、既存集落では人口は減少しており、高齢化も上がっている。そういった高齢化、みらい平に限らず他の集落も対応できるようにまちづくりという形でマスタープランに、各地域別に記載している。</li> </ul>

(次ページへ)

発言者	意見
委員	<p>・台風19号についての被害ということで、被害は当市には全くなかったと報告があったが、現実には小絹地区、玉台橋の下流におきまして堤防改修中の場所があるが、そこが越水をして「絹ふたば文化幼稚園」が床上2mぐらいの浸水に至っている。ちょうど守谷との境で、守谷市と合同でそこへ土嚢を積んで作成をしたが、幼稚園の場所についてはそういった水防工法が施せないような状況である。異常気象の影響、温暖化の影響で、今後こういった台風被害に関しては、より大型で強い台風の発生が予想される。台風に関しては、季節的にももう10月末で、11月あたりにも海水温が低下しておらず、台風の期間が大分長引くというようなこともあると思う。</p> <p>後は、一般的に全国で自然災害が大変多発をしている。洪水でや大きな地震の発生も予想されており、そういった防災対策が大変求められると思っている。</p> <p>83ページに想定浸水深というのがありますが、小貝川とつくばみらい市の東部地区を除き、中央付近が浸水の恐れがある地域になっている。常総市の4年前の水害のときに床上大体1.5m程浸水し、当時その地区に地区の公民館があり、浸水して建て替えをするという計画になった。地域住民で話し合いをして、浸水地域以外に建設したほうがいいというような意見もあったが浸水地域以外ということであると別の地区になってしまい、利用もしづらいというような話もあり、建て替えは元の位置に建て替えた。しかし構造的には屋上を1階と2階、平屋にして、へりの救出がしやすい、屋上避難のできるような構造としたというような経緯がある。</p> <p>つくばみらい市も比較的黄色い地区があり水深が浅く見込まれていると思う。場合によってはこの東部地区の高台地区に避難するのが良いと思うが、今回の台風でつくばみらいは、約700名程度の避難者がいた。隣の常総市から避難した方も含まれるので、正確な数字は分からないが、特に高齢の方の避難ができないというような話も、市役所で大分あった。そういったことを考えると、場合によってはこの浸水地域の中でも一時避難的な緊急避難のできるなるべく近くの避難場所が必要ではないかと思う。場合によってへりの救出なんかも備えた、例えば学校の屋上なんかに行くと平屋であれば、そこからの救出も可能であると思う。今回時間的に夜の台風の通過でしたので、大分風も強く暗闇で、車での避難も難しいというような経緯もあり、そういった面から学校、既存の浸水地区であっても、有効活用ができる場合もあり、その点は考慮して欲しい。</p> <p>今回の避難者は、常総市で約2,500名程度の避難をしており、これは、4年前の浸水の経験があり、早めの避難ができたように思う。後は、タイムラインと言いまして、台風が来る前の行動、いつ避難するとかいろんな準備、</p>

(次ページへ)

発言者	意見
委員	<p>そういった過去の経験を活かし、大分避難者が多かったと思っている。みらい市は大体 700 名、守谷市にあっては 600 名ぐらいの避難があった。避難の伝達は、つくばみらい市におきましては登録した方にメールの配信もしている。雨風が強くて防災無線がかなり聞こえなかったというような苦情もあり、後、夜で休んでいる方で分からなかったという方もいると思う。いろんな伝達方法があるので、伝達方法を駆使して周知をして欲しいと思う。</p> <p>県内におきましては、那珂川、久慈川あたりが氾濫したが、国でも避難の指示が出なかったという件があった。いろんな課題があるが、プランの中に特にそういった面についてもより強く記載をすることが望ましいのではないかなと思う。具体的にどこがどうということではないが、個人としてはそのように感じた。</p>
有田委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>既存の資料では、基本的な方針で、大きな基本方針としては書かれている。東日本大震災や近年の状況を踏まえて、あるいは先日の常総のときの平成 27 年 9 月の鬼怒川決壊のケースというのが 132 ページに具体的に記載されているが、今回の災害が含まれて、台風の頻度が高くなっていることを想定し、それに対応できるような強化、整備というのを方針として設定しておくことは望ましいと思う。この観点は、この後も二つ目の立地適正化計画でも、また皆さんの後ほどご確認、ご議論いただくテーマかと思う。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災いわゆる浸水に対する対策は、非常に市民として憂慮する、危険さえ感じる。特に小貝川があって、土手を水が越えた瞬間に相当浸水があり、被害も相当なものになるだろうということがあった。本当に大丈夫かと思ったところで、このプランを見ても、浸水をする地域は非常に多く、低い地域はほとんど浸水してしまう、そんな状況がある。防災に対する危険性などをプランの中にも書いてはいるが、特に水害というところについては、市として重要な課題として考えてほしい。</li> <li>この 5 万人の約人口の市としては医療に対する設備、施設というのは非常に少ない。弱いところなのかと、住んでいる住民としても感じる。病気をすると、他の市に行って診てもらってという、医療を受けにくい環境にある。安心、安全という市にしていくために、やはり医療施設の充実というところも非常に大事なのだろうと考える。</li> <li>非常に市が広範に広く住民が点在して住んでいることで、その地域間の交通網の連絡と言いますか、交通網の充実、公共交通機構だというふうには書かれていますが、公共的な交通網、そんなところも大事であり、非常にきちんと計画を立てていますが、コミュニティを大事にする、ネットワークを作るところでは、70 代、75 歳ぐらい高齢だと免許を返納するような時代にもなっているので、交通のネットワークといったところも非常に大事なのではないかと感じる。</li> </ul>

(次ページへ)

発言者	意見
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災というところと、医療と公共の交通網、この中に入れていただいているものも当然ありますが、重要に考えて、大切に考えて進めていくことが大事だと感じる。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水害、医療施設、つくばみらいは総合病院が市内になく、隣接している市町村に病院に通うということがあり、安全安心の医療の充実、次の立地適正化計画のほうにも盛り込んでいる。交通網の充実、ネットワークにつきましても、引き続き拡充を図りたいと考えている。</li> <li>・医療につきましても、つくばみらい市は二次医療圏ということで、この範囲ではベッド数が足りているということで、新規に総合病院の建設というのは難しい状況である。</li> <li>・みらい平地区にはまた違って、診療所、クリニック、ベッド数が19以下のものがこういったものを指すのですけれども、この20以上の病院と呼ばれるものについては立地が難しい。こういう状況があるが、この4月から公共交通につきましても、都市計画型となりまして、今コミュニティバスやデマンド乗合タクシーを運行している。市長の公約の病院バスというのを、この構築に向けて頑張っているので、病院バスによって市内には総合病院はないが、あるような環境を作っていきたい。</li> <li>・来年の4月からはこのコミュニティバスによって守谷の第一病院までは行けるような形になる。慶友病院のシャトルバスで市内の板橋の伊奈クリニックを往復しているような状況があり、こういったシャトルバスの協力を得て、慶友病院に行けるような協議を進めている。この総合病院につきましてもなるべくアクセス性を高めて市民の方も行けるような構築に向けて鋭意努力している。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災の観点ですが、中道志川の対策、鬼怒川と小貝川の対策はやっている、中道志川は今まで氾濫するというのは考えにくいのですが、実は大雨の吸収というのが大変重要である。今、改修ということで20年掛けて今も橋の工事をやっている。逆に約20年であそこしかできていないのですけれども、早期に完成してここにつくばみらい市に降った雨を自ら排出するような対策をやるべきではないかと思う。</li> </ul> <p>情報伝達の関係で、メールなど問題ありますが、ほとんど高齢化の人はそういうメールをやっていないので、家庭にホームのスピーカーを設置するようなことをこれからすべきだと思う。多分消防署もそういう考え方だと思うのですが、そういうことをやって情報伝達を強めていくということは大切だと思う。</p>

(次ページへ)

発言者	意見
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校跡地の問題がいろいろ書いてあるが、私はこの考えに反対である。みんな意見すると市民の人が使いやすいようにということだが、実際これをしていくと維持管理に市が大変苦勞する。私は、売却という方針なのですが、そういう書けないので、地域の意見なり市の全体的な成果と、そのあたりで進めるということにしたほうが良いと思う。義務教育配置の中でもそういう文言を使っているので、少し柔らかくしといたほうが良いと思う。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中道志川の対策につきましては、茨城県の土木事務所のほうで対応を行っており、やり方としても河川改修に時間が掛かっているので、引き続き市として河川改修は要望していく。時間が掛かるが、引き続き対策は講じていきたいと考えている。</li> <li>・ホームスピーカー、情報伝達につきましては、災害、命、人命に関わる物ですからいい対策がないのかということで、防災課にも相談を投げかけたいと思う。</li> <li>・学校跡地は、いろんな市民の皆様の考えがありますので、所管をしています学校教育課で意見を取りまとめて、引き続き学校があつていいまちづくりというのも考える。学校教育課と連携しながら情報を共有しまちづくりを、将来的なまちづくりを含めて考えていきたいと思う。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の先ほどの災害時の伝達方法ですが、スマホがいろんなところから鳴るので、大変だった。主人はスマホではないので、全然入ってこない。一緒にいるから分かることであり、嬉しかった。高齢者の方は早めに避難をと来たが、分かる高齢者と分からない高齢者との差。 情報を発してもそれを受け取れなかったら、高齢者は避難したほうが良いということも分からない。エコーがかかって何を話しているのかわからない。災害時は誰を対象にして言っているのか、聞こえない。 私のところ西ノ台地区なので避難したほうが良いか、私のところは小絹小学校と同じ高さで、低いのか、そこに避難するのかと不思議な感覚になった。戸惑ってしまったが、私は息子が高いところに逃げるので、そちらのほうに行った。防災無線、確実にみんなの元にすっきりその地区には必ず伝わる方法、そして一番自治会があるところとないところとあると思うのですが、自治会組織でもその伝達方法、西ノ台地区に発令されましたというその情報、みらい平地区ならみらい平地区限定でいく方法はもうないのか。</li> </ul>

(次ページへ)



発言者	意見
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の地域では、高齢者にそれぞれ把握している介護福祉課さんが個別に電話をしたというところもある。また、メールで連絡が来る人もいたがメールがない人にとってはとても分かりづらいことだった。</li> <li>・普段は子育て関係に携わっており、災害時は他の地域も受け入れると常総市であり守谷市で受け入れますという話だが、普段の生活の中では、今いろんところで子育て支援室が開設されているが、イベントをやらせていただくときに、そのイベント時はつくばみらい市の人だけ。他の地域からいらしたら、それは終わるまで他で遊んでと言う。すごく切なくて、せっかく遊びに来てくれたのに、そういう面も災害のときだけではなく、オープンにできるような、ある意味何かやるにはつくばみらい市の税金を使ってやっているからという話なのかもしれないが、どこも同じような地域が他のところへ行ったら、向こうで遊んでいてくださいと言わずに他の地域もみんなで同じ近所さんだねっという関係ができればと良い。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7ページの都市機能誘導区域、まちのイメージで、一番下、「夜もにぎやかで楽しいまち」とあるが、どういうイメージで書いてあるのか。みらい平地区のイメージで夜がにぎやかで楽しいまちと言われるとどうなるか分からなかったので、何をイメージしているのか教えてほしい。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろんな捉え方があると思うが、夜もにぎやかでというのは、飲食とかお酒を提供する商業施設である。飲食ができるまちですとか、そういったものを想定している。飲み屋街とか風俗風営施設ということではない。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夜が明るくて安全な、とかそういうイメージであればいいと思う。もう少し再考してほしい。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・捉え方によっては勘違いされる方はいる。現状においても、用途が近隣商業施設ではないので、実際はそういったものが事実上できないが、そういった勘違いがあるといけないので、今一度、表現については検討させてほしい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・立地適正化計画の資料を見て思ったのだが、市役所の位置を考え直して欲しい。都市計画のこの図を出しているのに、どうしてここに市役所の位置があるのか疑問である。20年間市役所がこの周りを動かないのが私には疑問である。人が集まるところに市役所があるというのが疑問なので、再考して欲しい。</li> <li>・128ページ資料1、地区懇談会を受けて追記したということで、「みらい平駅周辺市街地においては、既存公園におけるトイレ等の公園施設の需要に応じた施設再整備を検討します」と書かれているが、こちら事務局のほうで確認していただければよいと思う。</li> </ul>

(次ページへ)

発言者	意見
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 例えば住区基幹公園であったり、都市基幹公園であったり、そういう公園が持っている内容を踏まえた上で書かれているのであれば結構ですが、単純に意見が出たからここに反映しているとなると、きちんと住区基幹公園の中の街区公園、近隣公園、地区公園とそれぞれ内容と例えばどのぐらいのところにどういうものを作るというのがきちんと定められている、やみくもにトイレを作ったほうがいいというように見えてしまうので、その部分だけ文言等を変えるなり何でも結構ですので、再考してほしい。</li> <li>・ 135 ページの真ん中、基本方針のウの部分。子育て支援施設、私は、こちらの定義がよく分かりません。というのは、前のページ 133 ページに、教育・文化施設の整備方針の基本方針、アで幼稚園が一つの項目立てになっているが、子育て支援施設の中に保育所等ということで保育所は項目立てになっていない。包括する理由、このレベルを下げた理由というのが、働いている、子どもを保育所に預けている世代なので、よく分からないなと思った。いろいろ調べましたが、子育て支援施設の定義というのがはっきりしていないので、ここに保育所を包括して書くべきなのか、もしくは一つの項目立てとして一つレベルを上げて保育所、もっと言うなら下に書いてある放課後児童クラブも、レベルを上げるべきなのか。</li> <li>・ 子育て支援施設ということで地域のみんなで子育てを支えるまちづくりとして、4項目でまとめるのか、ここも一旦再考してほしい。</li> <li>・ 36 ページ、先ほど医療の話が出ましたが、総合病院に関しましてベッド数の話も出ましたけれども、私の周りで医師の転職を斡旋している会社に勤めている方がいる。総合病院をここに作れるのか作れないのかと聞いたときに、基本的にここには経営成り立たないから総合病院を作らないだろうという意見だった。どれくらい安全安心を守ればいいのかということで、今思っているのは、診療所が 13 箇所、歯科医院が 24 箇所あり、歯科医院を除いた診療所を増やしていき、つくばであったり、守谷であったり、今ある総合病院とうまく連携を図るといったというような案があればいいと思う。</li> <li>・ 病院が整理されるということもあり、そういった形で小さなクリニックをこちらに誘致することで日常の医療はそこでやって、大きくなったら総合病院で病院のバスを使っていただいて、15 分ないし 20 分掛かってしまいますが、そちらでフォローするというようなネットワークの構築を市が主導を取ってやるのであれば、少しは安心というものが保障されるのではないかと思う。</li> <li>・ 222 ページ、都市づくりにおける官民連携とあるが、これは産学官民じゃなくていいのかというのが疑問である。官民だけでこの市はやっていくのか。産業ないし学というので、筑波大学が近くにあり、今日も福祉の先生が筑波大学からいらしているが、産学官民ということで使えるものは全て使って都市づくりをやっていくというものを、観点でやや甘いと思う。官民連携のメリットで、官民だけに絞っているのが私は違和感を感じる。</li> </ul>

(次ページへ)

発言者	意見
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私はPTA会長もしており今年度の防災無線の会議に出させていただいて、先ほど防災無線の話がいくつか出たので、確定事項ではないが、知っている情報のみで申し上げさせていただくと、防災無線の話であれば、今ラップ型と言ってエコー、ハウリングがすごくしてしまうのに対して、直進型、まっすぐに音が飛ばせるようなスピーカーの設置ということで、防災課で動いている。それと高齢の方はスマホじゃなくて防災無線を、ということがあり、会議では高齢者の方にスマホは難しい、一方で私なんかは東京に働きに出ていますので、スマホのアプリがあったほうが良いということで、世代に応じた防災の連絡手段というのを構築しようという話が出ている。</li> <li>・情報として申し上げたいのは、もう少し都市計画課の方々大変かとは思いますが、学校教育課ともそうですが、もう少し連携を取って欲しい。こういう話も既にしており、かなり詰めているところまで話が出ている。いろんな課がこの都市計画マスタープランの実施にも入っているので、これ出すときに周りの課に一旦状況を伺ってから、会議に出ただけだと委員の方の不安とか疑問をその場で解決できていいかと思う。次回以降お願いしたい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病院の件だが、具合の悪い人にバスに乗っていけと言っても、大きな病院は行ってくださいと言っても無理である。せめてデマンド乗合タクシーを市を越えて行けるようにしてほしい。</li> <li>難しいようではあるが、それは声を大にしていっている。病院はやはりつくばみらい市は無理だと思う</li> </ul>

以上